

時代のニーズにこたえ 新たな働き手を創出する。



人ありき！

「ひとり親、あるいは子育て中や子育て後の女性や、社会復帰するためには派遣という働き方が適しています」と、総合人材サービス「シーデーピー」の田村篤史社長は言い切る。雇用の枠を広げ、より多くの人に就労する機会を提供することを使命とし、『雇用創造』を社是に掲げる田村氏の、強い信念が感じられる。とらえられることも多かった、ひとり親や障がい者、子育て中の女性、高齢者、さらには外国人をも、新たな労働の担い手としてとらえ、そのための支援を惜しまない。まずは、セミナーなどを開催して、働く意欲を引き出し、スキルアップをサポート。その一方で、働く場を得ることに奔走する。

仕事と家庭を両立したい女性にとって、一番働きたい時間帯は午前10時から午後2時。企業側にも都合があるため、個人で交渉しても就労につなげるのはなかなか難しい。しかし、人材派遣会社であれば、まとまった人材をきちんと確保できるという強みを活かして、企業側と「コラボレーション」したさまざまな働き方の提案が可能になる。事実、化粧品工場の、人が集まらないために止めていた工場ラインに、働く時間が限られている女性たちを起用、専用ラインで稼働させ、新しい雇用を生み出したのである。

同社の年間登録者数は1万人弱、同じ地域に

10人20人の就労希望者がいれば、フルタイム枠を時間で分けて働けるようなシフトにすることも可能なのだ。こうした実績を積み上げることで、企業側が、働き手に合わせた柔軟な環境づくりをするようになってきたという。

田村氏は「人ありき。派遣先の企業も女性のポテンシャルを重視し、結婚、出産で離職した彼女たちの職場復帰に期待しています。また、男性しかできないと考えられていた仕事を女性もできる仕事として見直すところもありますよ」と。それは取りも直さず、同社が新たな雇用を生み出したということ。

経済的自立が自信に

今年30周年を迎えた同社は、田村氏が4代目。父親の代に兄弟で創業し、当時の代表は伯父たちで父親は3代目。共同出資で多業種化していき、その間に人材派遣業もあつたという。彼自身は姉と妹に挟まれ、シャイで温厚な性格。それ故か、多くの友人に恵まれた。しかし、事業家一族の血は脈々と流れ、「いつか事業を起したい」と大学では経営学を学ぶ。

当時、世の中はITバブルに沸き、これからは情報化社会だと言われていた頃。田村氏は、横浜のIT関連企業でSEとして働き始める。その後、人材ビジネスが急成長したため、家業に入り、横浜営業所を立ち上げ、ITの人材派遣をスタート。やがて地元に戻り、代表に就任してからは「栃木の雇用を創り出す会社」を目指し、あらゆる可能性に挑戦。

障がい者雇用への積極的取組もその一つ。「全従業員に対して、2.0%以上の障がい者を雇用しなければならぬ」とする厚生労働省が定めた法定雇用率も就労の追い風にはなってきたが、まだまだ課題が山積する。そんな中、障がい者の経済的自立への支援事業として、特例子会社「CDPフロンティア」を設立。さくら市でシイタケ菌床の栽培・販売からスタートし、大谷地区で大谷石の採石場跡に溜まる地下冷水を利用した夏イチゴの生産・販売も手掛ける。国の補助金を活用しつつも、高付加価値を付けて独自の販路も開拓。雇用の創造だけにとどまらず、

地元にも大きく貢献することとなる。

また、経済的自立は心の余裕につながり、自信も生まれ、豊かな人生に通じると信じる。自分が豊かだという実感を持ってない人も多い中、「自分が豊かかどうかは自分の心が決めるもの。豊かだと思える心を育てたい。その土台となる経済的自立の場を提供するために、今やれることを「つずつやるだけ」とかみしめるように語る。

新グローバル化に向けて

30周年を機に、プライドと自信を持って、5、10年先を見据えて、新たなブランディング化に取り組み始めた。国内の潜在雇用を掘り起こし、教育し、働く環境を整えたとしても、将来的には労働人口が足りなくなることが必至。

「これまでグローバル化というと、海外に出ていくことを意味しましたが、今後は逆。今までの日本の歴史にはなかった転換期がやってくる」と自説を説く。つまり、労働力を外国人に担ってもらおうというもの。とはいえ、外国人労働者を企業が直接雇用するのはまだハードルが高い。それを見越して、日本で派遣というスタイルで働いてくれる人材を確保するために、海外に打って出ようという準備を進めているようだ。

時代のニーズをいち早く感じとり、さまざまな新提案で雇用の仕組み自体を進化させる手腕はお見事。超高齢化時代に向けた、働き方改革の先駆的存在に期待大である。

【取材日：平成29年4月6日】

Profile

昭和53年7月1日生まれ38歳。地元の小中学校を経て、栃木県立宇都宮北高等学校、産能大学経営情報学部卒。IT系ソフトウェア会社にてプログラマー・SEとして従事。平成16年7月よりシーデーピージャパン株式会社にSEとして入社。翌年営業に転じる。所長、事業部長を経て平成22年4月より現職。家庭では6歳を筆頭に2男1女の父。休日には遊び相手をし、「仕事をしている方が楽」と笑う。多くの友だちをもち、喜びを分かち合うことで人生が豊かになると子らに伝える。趣味はゴルフ、スコアは100前後。歴史が好きで、特に戦国時代に惹かれる。

たむら あつし
田村 篤史

